



# Zero Carbon Park , NORIKURA KOGEN

— 中部山岳国立公園 乗鞍高原におけるサステナブルな地域づくりの取組 —



のりくら高原  
ミライズ

※令和8年3月23日時点

※本資料では主に令和7年度進展した取組を中心に掲載

## 1. 中部山岳国立公園と乗鞍高原

中部山岳国立公園は、北アルプス一帯を占める日本を代表する山岳の国立公園。**令和6年12月4日に指定90周年を迎えた。**乗鞍高原は、公園南部に位置する標高3,026mの剣ヶ峰を主峰とする乗鞍岳の東麓（標高1,200～1,800m）に広がる高原地帯

令和3年3月22日、地域関係者協働により地域づくりビジョンである「のりくら高原ミライズ」\*を策定。

ゼロカーボンの推進を重要取組事項として定め、その将来性などが認められたことから、令和3年3月23日に日本初のゼロカーボンパークに登録。

\*併せて、大野川区、のりくら観光協会、松本市アルプス山岳郷、松本市、環境省、休暇村乗鞍高原、Blue Resort乗鞍、アルピコ交通、長野県で構成されるのりくら高原ミライズ構想協議会を設置し、重点取組事項について進捗管理を行う。

\*これまでの活動の取組状況や課題、地域をとりまく最新の状況をふまえて令和8年3月16日に「のりくら高原ミライズ」の改訂を行った。



一の瀬から望む乗鞍岳

のりくら高原ミライズ各PTに対応する事務局伴走体制

	脱炭素・ 脱プラ 実現PT	木の駅PT 地産地消 エネルギー ギヤ検討	一の瀬・ 遊歩道 整備PT	乗鞍交 通・周遊 手段確保 再生PT	草原 再生PT	外来種 対策PT	希少種 保全PT	トイレPT	乗鞍高原 トレイル マップPT	滞在体験 魅力向上 PT	移住推進 PT	地域生活 支援PT	運営・ 全体補佐
大野川区		○			○		○				○	○	
のりくら 観光協会								○	○				
松本市	○ (環境・地 域エネルギー ギヤ)	○ (環境・地 域エネルギー ギヤ)		○ (アルプス リゾート警 備本部)							○ (地域づくり センター・観光 交流センター)	○ (地域づくり センター)	
環境省			○			○	○			○			
松本市 アルプス山岳郷													○

令和4年4月26日に「のりくら高原『ゼロカーボンパーク』の具現化」として選定されていた**脱炭素先行地域**は、計画当初からの環境変化等（事業費高騰等）により、令和7年9月に辞退した。ただし、長期ビジョンを短期で実現させるための手段であったことから、木の駅事業\*など、ゼロカーボンパークの実現に向けて引き続き取り組んでいる。

\*伐採した景観支障木を薪等へ加工し、供給する地域ビジネス。脱炭素及び地域活性化の好循環を生み出す事業。

## 2.脱炭素の取組の実践

### ・一の瀬エリアの再整備

乗鞍高原らしい魅力を伝える滞在拠点を目指し、まいめの池駐車場周辺において環境省直轄整備事業で再整備を行っている。令和7年度は昨年度から引き続き新しいトイレの電気工事・機械工事を行い、10月6日から供用を開始した。



まいめの池駐車場公衆トイレ

### ・脱炭素設備導入のための補助事業の実施

松本市による「**乗鞍地域温暖化対策設備設置補助事業**」として、乗鞍高原地域の一般家庭や宿泊業者の電力消費に伴う二酸化炭素の排出量実質ゼロを実現するため、再エネ、省エネ設備の導入等について、国の交付金を活用し、対象経費の2/3補助を実施。令和7年9月に、脱炭素先行地域を辞退したことから、他の国庫補助の活用を検討し、引き続き脱炭素化を進めることとした。

### ・脱プラに向けた取組

各宿泊施設、店舗で脱プラボトルの使用、プラスチック製のアメニティを提供しない等の取組を順次実施。

### ・松本市乗鞍観光センター周辺再整備事業

松本市では、観光案内及び交通等の拠点である松本市乗鞍観光センターの再整備事業を進めてきた。令和7年度については実施設計を行い、ZEB化、太陽光発電設備及びEV充電器等の乗鞍地域の脱炭素化を率先的に進める要素も盛り込んだ整備内容とした。

導入設備		R4	R5	R6	R7	累計
太陽光発電設備	一般家庭					0
	宿泊施設等	2	2	2	1	7
蓄電池	一般家庭					0
	宿泊施設等		1	2	2	5
熱利用設備 (薪ストーブ、太陽熱、その他)	一般家庭	2	3	1	1	7
	宿泊施設等	4	5	4		13
既存住宅断熱改修	一般家庭		1		1	2
	宿泊施設等					0
高効率空調機器	一般家庭			5		5
	宿泊施設等	2	4	18	4	28
高効率照明機器	一般家庭					0
	宿泊施設等			2		2
高効率給湯器	一般家庭		2	13		15
	宿泊施設等	2	5	7		14
合計		12	23	54	9	98

## ・木の駅プロジェクト

のりくら高原ミライズ構想協議会の「木の駅プロジェクトチーム」において、前年度に伐採した伐採木を薪、丸太に加工しての販売した（薪29m<sup>3</sup>、丸太6m<sup>3</sup>）。今年度は地域内の3箇所（旧銀山荘周辺、サイクリングロード周辺2箇所）で修景伐採を行い、発生した伐採木は来年度以降に燃料としての供給をめざす。



園路周辺の支障木など



「木の駅」事業として各家庭・宿の燃料等として供給をめざす

## 3.地域の脱炭素化に向けた議論

「**ゼロカーボンパークの具現化**」の達成に向け、以下（全体の一部）の取組を実施。

- 令和4年9月より（一社）松本市アルプス山岳郷が松本市から委託を受け、「**乗鞍ゼロラボ**（乗鞍高原においてゼロカーボンを学び、実験と実践を共有するコミュニティ型ラボ）」を開催。令和7年度は、地域との協同を目指し、地域内のゼロカーボンに関する取組の見学や、コミュニティメンバーとの意見交換、地域内の小中学生向けのゼロカーボンを学ぶワークショップを開催した。



小中学生向けのワークショップの様子

- 乗鞍地域内及び地域外（市街地）に太陽光発電設備を設置し、乗鞍地域に電力供給することでゼロカーボンパークの実現を図ることとしたが、夜間の電力需要が全体の約55%を占めることから、蓄電池を導入して需給管理（電力供給）を行うことを求められた。現時点で蓄電池を導入した需給管理ができる市内事業者を確保できなかったため、のりくら高原ミライズの改訂に併せて、乗鞍地域で実現可能な地産エネルギーは何なのか、再度検討し、勉強会を行っていくこととした。

## 4. その他乗鞍高原での取組

### ・トレイル整備

乗鞍高原の美しい自然を、ハイキングやMTBで体験できる「**NORIKURA KOGEN TRAILS**」では、トレイル整備のための協力金の仕組みも継続して実施。令和7年度にはトレイルの魅力を発信するために、小冊子（ZINE）の制作やイベントを開催した。

令和7年度には、地域内のトレイルの実踏調査を行い現状を確認したうえで、8箇所において近自然工法（自然の仕組みに着目し、植生回復を行う整備理念）の考え方で修繕を行った。



### ・外来種対策

乗鞍高原に入り込んでしまった外来種（オオハンゴンソウ、ハルザキヤマガラシ、フランスギク等）の除去活動を実施。令和7年度は、のりくら高原ミライズ外来種対策チームによる駆除イベント（計5回）の開催および、地区ごとの駆除会（計7回）等を開催。

### ・一の瀬の草原再生整備

かつて放牧が行われ草原が広がっていた一の瀬エリアにおいて、令和3年に策定した「草原再生の手引き」を指針として、環境省、松本市及び地元町会により、令和3年度からシラカバの幼木等の伐採や刈払いを継続して実施している。

昨年に引き続き、一の瀬に生息する草原性の希少昆虫の保全に向けて、希少昆虫やその食草の生息、分布調査を行い情報の収集を行った。

